

# 第30期 中間報告書

2025年7月1日 ▶ 2025年12月31日

## 日本システムバンク

証券コード 5530



代表取締役社長

野坂 信嘉

株主の皆様には、日頃より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。  
さて、当社の第30期上半期（2025年7月1日から2025年12月31日まで）の経営状況等について、ご報告申し上げます。  
当中間連結会計期間における我が国の経済は、雇用・所得環境の改善の動きが続く中で、個人消費の持ち直しの動きが見られる等、緩やかな回復基調にあります。また、経済政策「責任ある積極財政」によって景気回復が期待されております。一方で物価対策として2025年12月に金融引締めが行われましたが、引き続き金融引締めを行う可能性が示唆されており、海外経済の先行き懸念等も含め我が国の経済への下押し圧力等については、引き続き注視が必要な状況です。  
当社グループが属する駐車場業界におきましては、経済の緩やかな回復が商業施設や繁華街、オフィス街等への外出機会を増やし、駐車場の稼働は堅調に推移しました。  
このような環境のもと、当社グループは、新規駐車場の開設や既存駐車場の料金の見直しにより売上の拡大を図りつつ、収益性の高い物件を厳選して直営駐車場の開設を進めました。特に、直営駐車場においては、駐車スペースがフラットで駐車や乗り降りしやすいフラップレス駐車場の推進や、料金精算時に硬貨詰まりなどのトラブルが起こらないキャッシュレス決済への対応など、利用者が安心して使える駐車場づくりに努めました。  
以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は4,017,938千円（前年同期比3.0%増）、営業利益は319,290千円（前年同期比9.0%増）、経常利益は307,341千円（前年同期比6.1%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は244,304千円（前年同期比32.3%増）となりました。  
報告セグメントごとの経営成績を示すと、次のとおりであります。

### ① コインパーキング事業

コインパーキング運営ビジネス（直営駐車場・駐輪場）につきましては、堅調な稼働を維持し、当社グループが重点地域と位置付ける北海道、東北及び北陸を中心に新規開設を進めました。北海道においては、札幌地区、帯広地区の銀行やホテルとの提携、東北においては、仙台市内の人口増加エリアでの集中的な展開、北陸においては郊外駅周辺への開設など、地域特性や社会動向に即した開設を進め、収益性及びシェアの拡大に努めました。他方で、今後の札幌地区での新規開設に経営資源を集中させるべく、2025年12月1日に北海道函館地区のコインパーキング事業を譲渡いたしました。その結果、直営駐車場・駐輪場の件数は当期首より純増となりました。一方車室数については、主に駐輪場2件（461車室）が解約となった影響により純減となりました。既存の駐車場においては、キャッシュレス決済への対応やフラップレス化によって利便性の向上を図ると共に、物価上昇を踏まえた料金の見直しを実施し、収益性の維持・改善に取り組みしました。  
駐輪場機器の販売・保守ビジネス（管理受託駐車場・駐輪場）の新規管理受託につきましては、首都圏及び関西圏を中心に、商業施設や駅近接地での駐輪場の新規受託が好調に推移しました。これにより管理受託駐車場・駐輪場の件数、車室数ともに当期首から純増となりました。

その結果、当中間連結会計期間における外部顧客への売上高は3,959,415千円（前年同期比3.1%増）、セグメント利益は561,212千円（前年同期比4.8%増）となりました。

### ② プロパティマネジメント事業

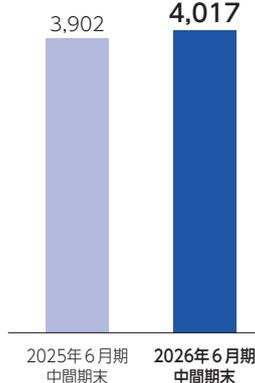
プロパティマネジメント事業につきましては、自社所有の賃貸用建物を、前連結会計年度において2件、当中間連結会計期間において2件（長野県長野市1件、福井県大野市1件）を売却したことにより売上が減少しました。その結果、当中間連結会計期間における外部顧客への売上高は51,700千円（前年同期比7.4%減）、セグメント利益は5,545千円（前年同期は1,561千円のセグメント損失）となりました。

2026年2月

## 財務ハイライト

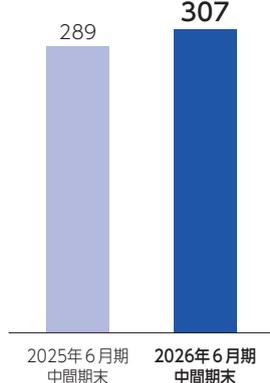
### 売上高

(単位: 百万円)



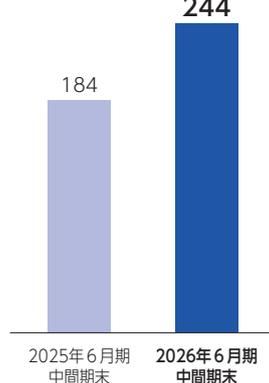
### 経常利益

(単位: 百万円)



### 親会社株主に帰属する中間純利益

(単位: 百万円)



## 駐車場・駐輪場 件数

### 直営駐車場・駐輪場

(単位: 件)



### 管理受託駐車場・駐輪場

(単位: 件)

